

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／債券	
信託期間	無期限（1961年9月22日設定）	
運用方針	わが国の公社債および公社債投信マザーファンド受益証券へ投資し、NOMURA-BPI短期をベンチマークとして、利子等収益の確保および売買益の獲得をめざします。	
主要運用対象	ベビーフンド	わが国の公社債および公社債投信マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	わが国の公社債を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーフンド	外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、運用収益（純資産総額が当該元本の額（1万口当たり1万円）を超過する額）の全額を分配します。	

運用報告書（全体版）

追加型・公社債証券投資信託
（9月設定）
公社債投信（9月号）

第63期（決算日：2024年9月19日）



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、お手持ちの「追加型・公社債証券投資信託（9月設定）」は、去る9月19日に第63期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJアセットマネジメント

東京都港区東新橋一丁目9番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
（受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近3期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額		NOMURA-BPI短期		債券組入比率	債券先物比率	純資産額
		税込分配金	騰落率	騰落率	騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
61期(2022年9月20日)	9,973	0.00	△0.3	234.50	△0.1	96.2	—	285
62期(2023年9月19日)	9,969	0.00	△0.0	234.18	△0.1	97.8	—	273
63期(2024年9月19日)	10,000	2.91	0.3	233.60	△0.2	98.2	—	263

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) NOMURA-BPI短期とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の残存期間1年から3年の債券で構成されている債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI総合のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率-売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		NOMURA-BPI短期		債券組入比率	債券先物比率	債券率
	円	騰落率	騰落率	騰落率			
(期首)	円	%		%	%	%	%
2023年9月19日	9,969	—	234.18	—	97.8	—	—
9月末	9,967	△0.0	234.16	△0.0	97.9	—	—
10月末	9,954	△0.2	233.81	△0.2	98.3	—	—
11月末	9,981	0.1	234.29	0.1	98.8	—	—
12月末	9,992	0.2	234.38	0.1	97.3	—	—
2024年1月末	9,992	0.2	234.28	0.0	97.6	—	—
2月末	9,987	0.2	233.85	△0.1	95.9	—	—
3月末	9,992	0.2	233.93	△0.1	96.1	—	—
4月末	9,985	0.2	233.60	△0.2	98.4	—	—
5月末	9,966	△0.0	233.15	△0.4	98.7	—	—
6月末	9,988	0.2	233.54	△0.3	97.2	—	—
7月末	9,975	0.1	233.18	△0.4	97.7	—	—
8月末	10,001	0.3	233.62	△0.2	98.0	—	—
(期末)							
2024年9月19日	10,002.91	0.3	233.60	△0.2	98.2	—	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

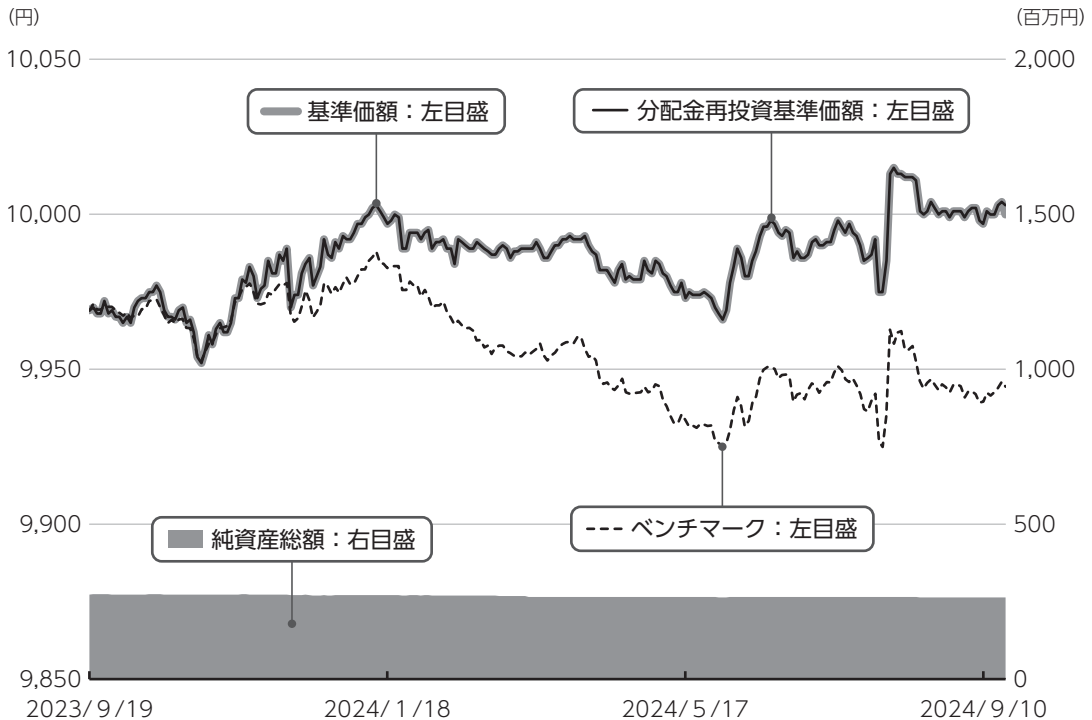
(注) 「債券先物比率」は買建比率-売建比率。

運用経過

第63期：2023年9月20日～2024年9月19日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第63期首	9,969円
第63期末	10,000円
既払分配金	2.91円
騰落率	0.3%
	(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ0.3%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-0.2%）を0.5%上回りました。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

一般債の国債とのスプレッド（利回り格差）が縮小したことや、利子等収益を獲得したことが基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

国内金利が上昇したことや、信託報酬等コストが基準価額の下落要因となりました。

第63期：2023年9月20日～2024年9月19日

投資環境について

国内短期ゾーンの金利は上昇、一般債の国債とのスプレッドは縮小となりました。

国内短期ゾーンの金利は、日銀によるイールドカーブ・コントロールの撤廃や短期金利目

標水準の引き上げなどから上昇しました。一般債の国債とのスプレッドは、国内金利が上昇する中、期間の後半にかけて縮小しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 追加型・公社債証券投資信託（9月設定）

主要投資対象である公社債投信マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の安全性の高い公社債を高位に組み入れた運用を行いました。

▶ 公社債投信マザーファンド 組入比率

期間を通じて高位組み入れを維持しました。

債券種別構成

国内金利の低位安定推移を見込み、利回

り向上の観点から一般債をオーバーウェイトとしました。

デュレーション（平均回収期間や金利感応度）

日銀の金融政策変更局面においても中短期金利は引き続き低位で推移するものと想定し、デュレーションをベンチマーク並みに調整しました。

残存期間構成

利回り向上の観点から中期ゾーンをオーバーウェイトとしました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

▶ 追加型・公社債証券投資信託（9月設定）

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（-0.2%）を0.5%上回りました。

マザーファンド保有以外の要因

マイナス要因

信託報酬等コストなどがマイナスに影響しました。

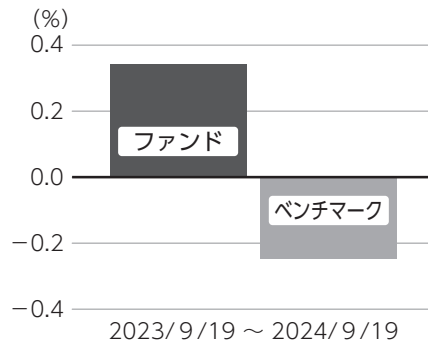
マザーファンド保有による要因

プラス要因

債券種別構成

国債対比で利回りの高い一般債をベンチマーク対比でオーバーウェイトとしていたこと。

基準価額（ベビーファンド）とベンチマークの対比（騰落率）



※ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

▶ 分配金について

当期間の収益分配金（元本超過額）は当ファンドの分配方針に基づきまして、2円91銭（1万円当たり）とさせていただきます。

今後の運用方針 （作成対象期間末での見解です。）

▶ 追加型・公社債証券投資信託（9月設定）

公社債投信マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保ち、マザーファンドのポートフォリオの構成に近づけた状態を維持する方針です。

▶ 公社債投信マザーファンド

国内景気は一部に弱めの動きもみられますが緩やかに回復しています。海外経済は緩やかに成長しており、輸出や生産は横ばい圏内の動きとなっています。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも底堅く推移しています。先行きにつきまし

ては、海外経済の緩やかな成長や緩和的な金融環境などを背景に、緩やかな回復傾向が続くものと思われます。国内債券相場は、日銀金融政策や海外金利動向などを睨みながら神経質な展開を予想します。国内事業債のスプレッドについてはもみ合いでの推移になるものと思われます。こうしたなか、債券種別構成は流動性や銘柄分散に留意しつつ、国債対比で利回りの高い一般債の組入比率をベンチマーク比高めに維持します。また、安定した利子収益確保をめざし、債券組入比率は引き続き高位に維持する方針です。

2023年9月20日～2024年9月19日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	15	0.150	(a) 信託報酬 = 1万口当たり元本 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
（投信会社）	(4)	(0.036)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(10)	(0.103)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(1)	(0.011)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.000)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（監査費用）	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	15	0.153	

期中の平均基準価額は、9,985円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

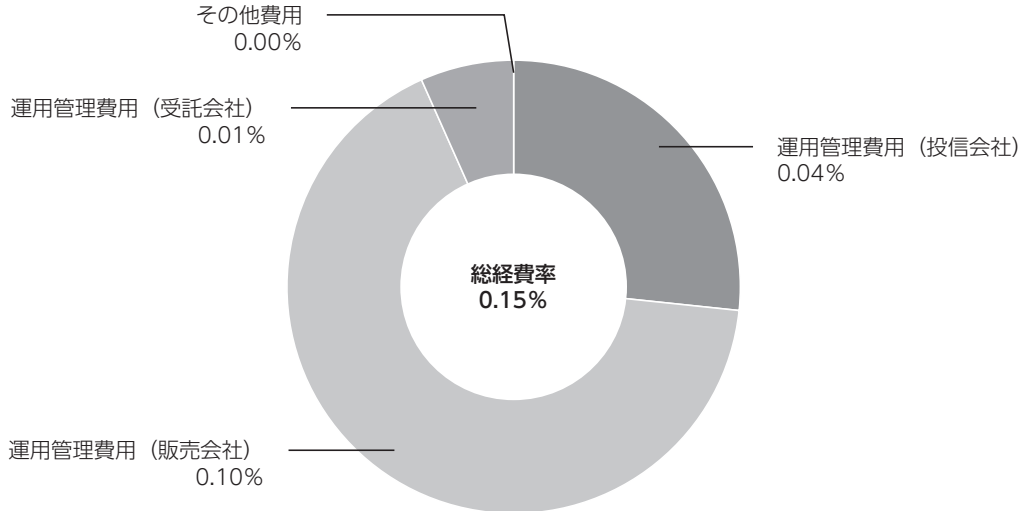
(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.15%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2023年9月20日～2024年9月19日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
公社債投信マザーファンド	千口 1,002	千円 1,105	千口 11,189	千円 12,366

○利害関係人との取引状況等

(2023年9月20日～2024年9月19日)

利害関係人との取引状況

<追加型・公社債証券投資信託（9月設定）公社債投信（9月号）>

該当事項はございません。

<公社債投信マザーファンド>

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
			%			%
公社債	百万円 1,799	百万円 199	% 11.1	百万円 1,495	百万円 200	% 13.4

平均保有割合 4.7%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

(注) 公社債には現先などによるものを含みません。

利害関係人の発行する有価証券等

<公社債投信マザーファンド>

種類	買付額	売付額	当期末保有額
公社債	百万円 199	百万円 -	百万円 499

利害関係人である金融商品取引業者が主幹事となって発行される有価証券

<公社債投信マザーファンド>

種類	買付額
公社債	百万円 1,000

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱HCキャピタル、アコムです。

○組入資産の明細

(2024年9月19日現在)

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
公社債投信マザーファンド		247,794	237,607	263,268

○投資信託財産の構成

(2024年9月19日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債投信マザーファンド	千円 263,268	% 99.6
コール・ローン等、その他	1,069	0.4
投資信託財産総額	264,337	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2024年9月19日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	264,337,569
コール・ローン等	1,064,136
公社債投信マザーファンド(評価額)	263,268,820
未収入金	4,607
未収利息	6
(B) 負債	487,897
未払収益分配金	76,780
未払信託報酬	403,556
その他未払費用	7,561
(C) 純資産総額(A－B)	263,849,672
元本	263,849,423
次期繰越損益金	249
(D) 受益権総口数	263,849,423口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,000円

<注記事項>

- ①期首元本額 274,733,177円
 期中追加設定元本額 1,115,875円
 期中一部解約元本額 11,999,629円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.0000円です。

②分配金の計算過程

決算期末における運用収益（純資産総額の元本超過額）の全額を分配金額としております。ただし、分配金額は1万口当たりの分配金単価を銭未満で切捨てて算出しているため、若干の繰越金を生じます。

第63期

計算期間末における純資産総額の元本超過額77,029円を分配対象収益とし、76,780円（1万口当たり2.91円）を分配金額としております。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	2円91銭
----------------	-------

*三菱UFJアセットマネジメントでは本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）をご覧ください。

【お 知 ら せ】

委託会社の商号変更に対応するため、信託約款に所要の変更を行いました。
 2023年10月1日より商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更しました。
 (2023年10月1日)

○損益の状況（2023年9月20日～2024年9月19日）

項 目	当 期
	円
(A) 受取利息等収益	446
受取利息	455
支払利息	△ 9
(B) 有価証券売買損益	1,336,855
売買益	1,337,088
売買損	△ 233
(C) 信託報酬等	△ 411,117
(D) 当期利益(A+B+C)	926,184
(E) 前期繰越損益金	△ 856,417
(F) 追加信託差損益金	△ 7,439
(G) 解約差損益金	14,701
(H) 計(D+E+F+G)	77,029
(I) 収益分配金	△ 76,780
次期繰越損益金(H+I)	249

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

公社債投信マザーファンド

《第23期》決算日2024年4月19日

[計算期間：2023年4月20日～2024年4月19日]

「公社債投信マザーファンド」は、4月19日に第23期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第23期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	信託財産の安定的な成長をめざします。わが国の公社債へ投資し、NOMURA-BPI 短期をベンチマークとして、利子等収益の確保および売買益の獲得をめざします。公社債組入比率の調整のためおよび価格変動リスクを回避するために債券先物取引、債券先物オプション取引等を利用する場合があります。
主 要 運 用 対 象	わが国の公社債を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	外貨建資産への投資は行いません。

○最近3期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		NOMURA-BPI 短期		債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率			
	円	%		%	%	%	百万円
21期(2022年4月19日)	11,023	0.1	234.45	△0.2	97.7	—	6,089
22期(2023年4月19日)	11,008	△0.1	234.46	0.0	97.3	—	5,840
23期(2024年4月19日)	11,052	0.4	233.66	△0.3	98.4	—	5,661

(注) NOMURA-BPI 短期とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の残存期間1年から3年の債券で構成されている債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI 総合のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は本社に帰属します。なお、本社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率-売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		N O M U R A - B P I 短 期		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	券 率
	騰 落 率	率	騰 落 率	率			
(期 首) 2023年4月19日	円 11,008	% —	234.46	% —	97.3	% —	—
4月末	11,016	0.1	234.53	0.0	97.3	—	—
5月末	11,032	0.2	234.57	0.0	99.0	—	—
6月末	11,043	0.3	234.67	0.1	99.1	—	—
7月末	11,033	0.2	234.35	△0.0	97.5	—	—
8月末	11,030	0.2	234.24	△0.1	98.0	—	—
9月末	11,024	0.1	234.16	△0.1	98.1	—	—
10月末	11,011	0.0	233.81	△0.3	98.6	—	—
11月末	11,042	0.3	234.29	△0.1	99.0	—	—
12月末	11,056	0.4	234.38	△0.0	97.5	—	—
2024年1月末	11,057	0.4	234.28	△0.1	97.9	—	—
2月末	11,053	0.4	233.85	△0.3	96.2	—	—
3月末	11,060	0.5	233.93	△0.2	96.4	—	—
(期 末) 2024年4月19日	11,052	0.4	233.66	△0.3	98.4	—	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

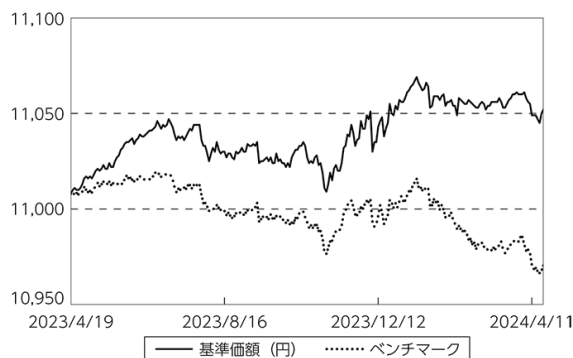
◎基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ0.4%の上昇となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(−0.3%)を0.7%上回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

● 基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

一般債の国債とのスプレッド(利回り格差)が縮小したことや、利子等収益を獲得したことが基準価額の上昇要因となりました。

● 投資環境について

国内短期ゾーンの金利は上昇、一般債の国債とのスプレッドは縮小となりました。

- ・国内短期ゾーンの金利は、日銀によるイールドカーブ・コントロールの撤廃やマイナス金利の解除など、金融政策の変更を背景に上昇しました。
- ・一般債の国債とのスプレッドは、国内金利の変動性が上昇する中、もみ合いで推移しましたが、期間末にかけて縮小し、期間を通じてみると縮小しました。

● 当該投資信託のポートフォリオについて

◎ 組入比率

- ・期間を通じて高位組み入れを維持しました。

◎ 債券種別構成

- ・国内金利の低位安定推移を見込み、利回り向上の観点から一般債をオーバーウェイトとしました。

◎ デュレーション(平均回収期間や金利感応度)

- ・日銀による金融政策修正観測が高まったことなどから国内短期ゾーンの金利は上昇余地があるものと判断し、期間の初めはデュレーションをベンチマーク対比短めとしましたが、その後日銀の政策修正への思惑が後退したことから、2023年5月にデュレーションをベンチマーク並みとしました。

◎ 残存期間構成

- ・利回り向上の観点から中期ゾーンをオーバーウェイトとしました。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(-0.3%)を0.7%上回りました。

- ・この主な要因は、次の通りです。

(プラス要因)

◎ 債券種別構成

- ・国債対比で利回りの高い一般債をベンチマーク対比でオーバーウェイトとしていたこと。

○ 今後の運用方針

- ・国内景気は一部に弱めの動きもみられますが緩やかに回復しています。輸出や生産は、海外経済の回復ペースの鈍化の影響を受けつつも横ばい圏内の動きとなっています。また、個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも底堅く推移しています。しかしながら、海外の経済・物価動向など懸念材料も多く、資源価格の動向などの問題もあり景気先行きの不確実性は依然として高いものと思われます。国内債券相場は、海外金利動向、物価動向、為替動向などを睨みながら神経質な展開を予想します。国内事業債のスプレッドについてはもみ合いでの推移になるものと思われます。こうしたなか、債券種別構成は流動性や銘柄分散に留意しつつ、国債対比で利回りの高い一般債の組入比率をベンチマーク比高めに維持します。

○1万口当たりの費用明細

(2023年4月20日～2024年4月19日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2023年4月20日～2024年4月19日)

公社債

		買付額	売付額
国	国債証券	千円 —	千円 10,087
	特殊債券	100,439	—
内	社債券	2,497,252	1,994,540 (700,000)

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注) ()内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注) 社債券には新株予約権付社債(転換社債)は含まれておりません。

○利害関係人との取引状況等

(2023年4月20日～2024年4月19日)

利害関係人との取引状況

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
		百万円	%		百万円	%
公社債	2,597	199	7.7	2,004	500	25.0

(注) 公社債には現先などによるものを含みません。

利害関係人の発行する有価証券等

種類	買付額	売付額	当期末保有額
公社債	百万円 199	百万円 —	百万円 399

利害関係人である金融商品取引業者が主幹事となって発行される有価証券

種類	買付額
公社債	百万円 900

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱HCキャピタル、アコムです。

○組入資産の明細

(2024年4月19日現在)

国内公社債

(A)国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期			末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
金融債券	100,000	99,289	1.8	—	—	1.8	—
	(100,000)	(99,289)	(1.8)	(—)	(—)	(1.8)	(—)
普通社債券	5,500,000	5,474,211	96.7	—	7.0	45.6	44.1
	(5,500,000)	(5,474,211)	(96.7)	(—)	(7.0)	(45.6)	(44.1)
合 計	5,600,000	5,573,500	98.4	—	7.0	47.4	44.1
	(5,600,000)	(5,573,500)	(98.4)	(—)	(7.0)	(47.4)	(44.1)

(注) ()内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 残存期間が1年以内の公社債は、原則として償却原価法により評価しています。

(B)国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	当期末		
	利率	額面金額	評価額
金融債券	%	千円	千円
い第872号商工債券	0.45	100,000	99,289
小計		100,000	99,289
普通社債券			
第1回関西電力弘繰延・期限前償還条項・劣後特約付	0.896	100,000	99,531
第494回東北電力	0.425	100,000	99,391
第29回大和ハウス工業	0.21	100,000	99,807
第27回東急不動産ホールディングス(グリーン)	0.32	100,000	99,586
第3回日本酸素ホールディングス	0.33	100,000	99,489
第16回富士フイルムホールディングス(ソーシャル)	0.1	100,000	99,774
第10回資生堂	0.08	100,000	99,818
第1回日本製鉄	0.14	100,000	100,007
第2回日本製鉄	0.24	100,000	99,318
第67回神戸製鋼所	0.2	100,000	98,927
第1回住友生命2023基金	0.705	100,000	98,793
第17回パナソニック	0.47	100,000	99,670
第24回パナソニックホールディングス	0.709	100,000	99,517
第34回ソニー	0.13	100,000	99,964
第37回ソニーグループ	0.28	100,000	99,747
第13回J A三井リース	0.15	100,000	99,984
第25回J A三井リース	0.39	100,000	99,420
第1回明治安田生命2019基金	0.29	100,000	99,963
第1回日本生命2021基金劣後特約付	0.28	100,000	99,034
第18回みずほフィナンシャルグループ期限前償還条項付	0.42	100,000	99,948
第28回芙蓉総合リース	0.14	100,000	99,160
第29回S B Iホールディングス	1.0	100,000	100,001
第34回S B Iホールディングス	0.95	100,000	99,474
第103回トヨタファイナンス	0.617	200,000	199,452
第42回リコーリース	0.39	100,000	99,195
第8回イオンフィナンシャルサービス	0.3	100,000	99,962
第15回イオンフィナンシャルサービス	0.36	100,000	99,337
第79回アコム	0.29	200,000	199,795
第179回オリックス	0.9	100,000	100,097
第199回オリックス	0.19	200,000	199,562
第27回三井住友ファイナンス&リース	0.22	100,000	99,119
第32回三井住友ファイナンス&リース	0.2	200,000	197,940
第70回三菱UFJリース	0.2	100,000	99,696
第75回三菱UFJリース	0.22	100,000	99,980
第36回大和証券グループ本社	0.23	100,000	99,073
第40回大和証券グループ本社	0.575	100,000	99,722
第44回大和証券グループ本社(グリーン)	0.47	100,000	99,639
第3回野村ホールディングス	0.28	100,000	98,709
第7回野村ホールディングス	0.68	100,000	99,654
第2回ソフトバンク	0.33	100,000	99,818
第32回フランス相互信用連合銀行	0.267	200,000	198,896
第8回ビー・ピー・シー・イー・エス・エー	0.499	100,000	99,800

銘	柄	当 期 末			
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
普通社債券		%	千円	千円	
第9回ビー・ビー・シー・イー・エス・エー	期限前償還条項付	1.1	100,000	97,444	2031/12/16
第2回クレディ・アグリコル・エス・エー (2017)		0.839	100,000	98,487	2027/6/9
第22回クレディ・アグリコル・エス・エー (2024)		0.724	100,000	99,566	2027/1/26
第9回マラヤン・バンキング		0.25	100,000	99,738	2025/2/4
第10回ロイズ・バンキング・グループ	期限前償還条項付	1.247	200,000	199,378	2028/5/26
第11回ロイズ・バンキング・グループ	期限前償還条項付	1.352	100,000	99,734	2029/5/25
第24回ルノー		1.54	100,000	100,089	2024/7/5
小	計		5,500,000	5,474,211	
合	計		5,600,000	5,573,500	

○投資信託財産の構成

(2024年4月19日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 5,573,500	% 98.4
コール・ローン等、その他	92,663	1.6
投資信託財産総額	5,666,163	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年4月19日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	5,666,163,406
コール・ローン等	85,420,097
特殊債券(評価額)	99,289,000
社債券(評価額)	5,474,211,761
未収利息	7,242,548
(B) 負債	4,663,233
未払解約金	4,663,233
(C) 純資産総額(A-B)	5,661,500,173
元本	5,122,423,819
次期繰越損益金	539,076,354
(D) 受益権総口数	5,122,423,819口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,052円

<注記事項>

①期首元本額	5,305,092,206円
期中追加設定元本額	5,727,472円
期中一部解約元本額	188,395,859円

また、1口当たり純資産額は、期末11,052円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

追加型・公社債証券投資信託(2月設定)	703,579,612円
追加型・公社債証券投資信託(12月設定)	600,589,809円
追加型・公社債証券投資信託(4月設定)	538,952,140円
追加型・公社債証券投資信託(8月設定)	513,844,529円
追加型・公社債証券投資信託(11月設定)	491,906,661円
追加型・公社債証券投資信託(6月設定)	436,569,568円
追加型・公社債証券投資信託(1月設定)	401,270,001円
追加型・公社債証券投資信託(7月設定)	328,751,869円
追加型・公社債証券投資信託(5月設定)	312,434,014円
追加型・公社債証券投資信託(3月設定)	301,524,052円
追加型・公社債証券投資信託(10月設定)	252,685,897円
追加型・公社債証券投資信託(9月設定)	240,315,667円
合計	5,122,423,819円

[お知らせ]

委託会社の商号変更に対応するため、信託約款に所要の変更を行いました。
2023年10月1日より商号を三菱UFJアセットマネジメント株式会社に変更しました。
(2023年10月1日)

○損益の状況 (2023年4月20日～2024年4月19日)

項 目	当 期
	円
(A) 受取利息等収益	25,653,331
受取利息	25,692,411
支払利息	△ 39,080
(B) 有価証券売買損益	△ 2,481,553
売買益	12,709,077
売買損	△ 15,190,630
(C) 当期利益(A+B)	23,171,778
(D) 前期繰越損益金	534,923,515
(E) 追加信託差損益金	593,574
(F) 解約差損益金	△ 19,612,513
(G) 計(C+D+E+F)	539,076,354
次期繰越損益金(G)	539,076,354

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。